

令和6年度 基本施策評価シート

作成日

令和6年6月12日

基 本 施 策	G2	だれもが生涯を通じていきいきと学べる社会をつくります		
2025年度に めざす姿	対 象		意 図	
	市民が		自ら学ぶとともに、学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている。	
第五次総合計画[前期基本計画]基本施策掲載ページ			200ページ	
基本施策主管課名	生涯学習企画課	関 係 課 名	生涯学習施設課、都市経営室	

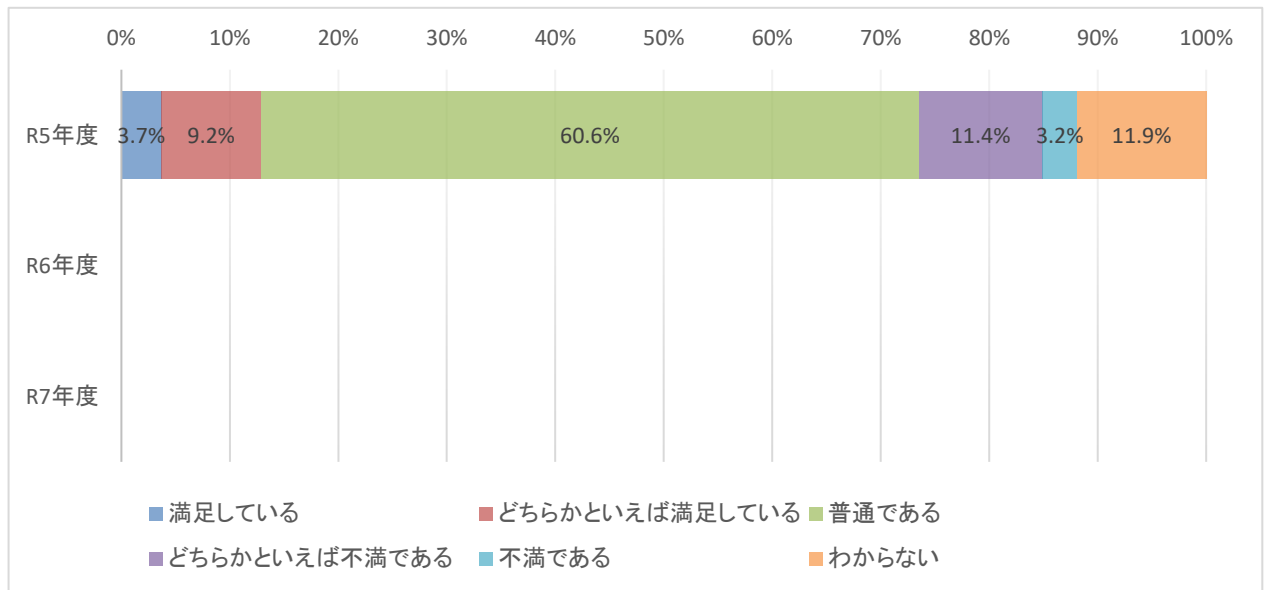
基本施策の総合評価

総括	●基本施策の成果指標である「生涯学習施設等の利用者数」は、2,311千人(令和5年度実績)と、基準値である2,680千人(H28～H30年度の平均)を下回っているものの、コロナ禍で大幅に利用者が落ち込んだ令和3年度と比較すると目標値に向かって回復傾向にある。 また、成果指標「地域の学習活動等への支援者数」は、8,578人(令和5年度実績)で、目標値を上回る結果となった。 ●市民満足度については、「どちらかといえば不満」を含めると約14.6%の方が、生涯を通じた学びについての満足できていない状況である。 以上を踏まえ、今後の主な取組みは次のとおりとする。
G2-1	●公民館講座については、主に高齢者を対象としたスマホ講座を開講するなど、公民館に課せられている現代的課題の解決に資する講座の開講や仕事帰りの市民でも気軽に受講可能な時間帯での講座の充実を図るとともに、公民館が連携したオンライン講座などにも取り組み、デジタル活用の内容を充実していく。 ●恐竜博物館では、施設見学に際して、学習ポイントを押さえた映像教材やワークシートを新たに作成し、学習活動の充実を図る。 ●図書館では、第三次長崎市子ども読書活動推進計画に基づき、関係課、関係機関と連携し、子どもの読書活動を推進するとともに、各種事業やイベントを実施することで、市民の読書活動の推進と、電子図書館の周知及びコンテンツの充実に取り組む。 ●U-サポの取組みについては、事業受託先であるやってみゅーでスクと連携し、大学生やボランティア募集の可能性がある団体への周知を図る。併せて、今年度開業する「長崎スタジアムシティ」と連携した取組みを行うことで、学生ニーズを捉えた長崎ならではの学びの場を創出し、魅力向上を図っていく。
G2-2	●公民館ボランティアのニーズの把握に努め、学んだことを還元できる場づくりやその周知方法に引き続き取り組む。 ●図書ボランティアの活動は、引き続きボランティアとの協働体制を構築していく。 ●ファミリープログラムファシリテーターについては、引き継ぎ登録者の裾野を広げ、活動しやすい環境づくりに努める。

二次評価(施策評価会議による評価)

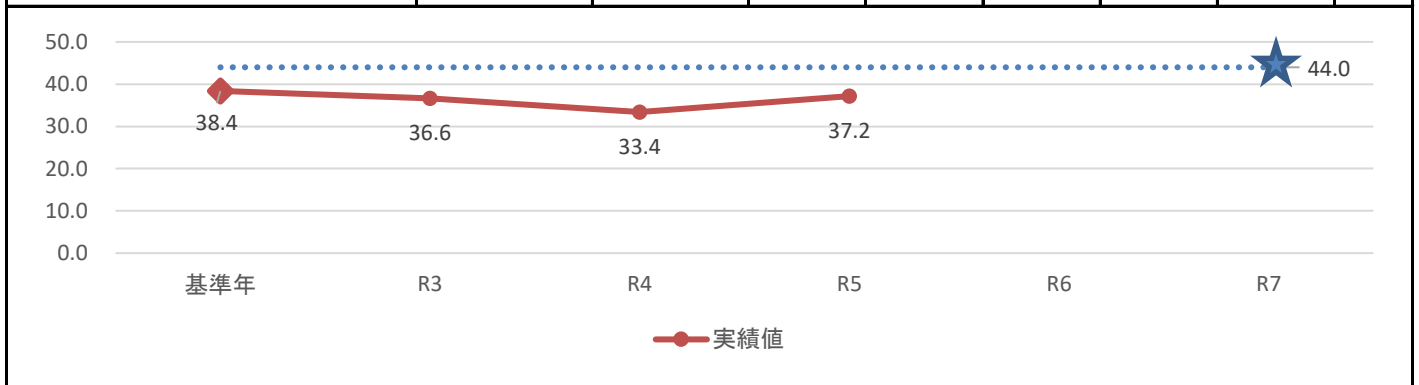
●	【G2-1】 「施策を推進する主な事業」と「成果」等の記載が繋がっていないため、齟齬がないような記載を検討すること。
●	【G2-1】 「問題点とその要因」の「①市民の学習機会の充実」について、「ICT活用の人材が十分でない」との記載に「今後の取組方針」が対応していないため、人材育成の視点から記載を検討すること。また、「必要に応じて」というのはどのような場面か具体的に記載すること。
●	【G2-2】 「今後の取組方針」について具体性が乏しいため、「問題点とその要因」に対応した記載となるよう検討すること。

基本施策に対する市民満足度調査結果

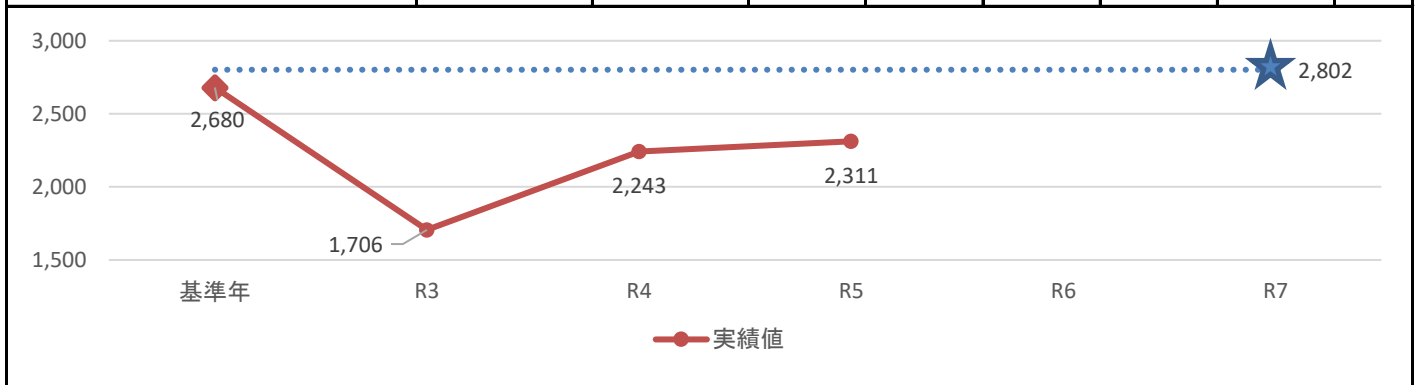


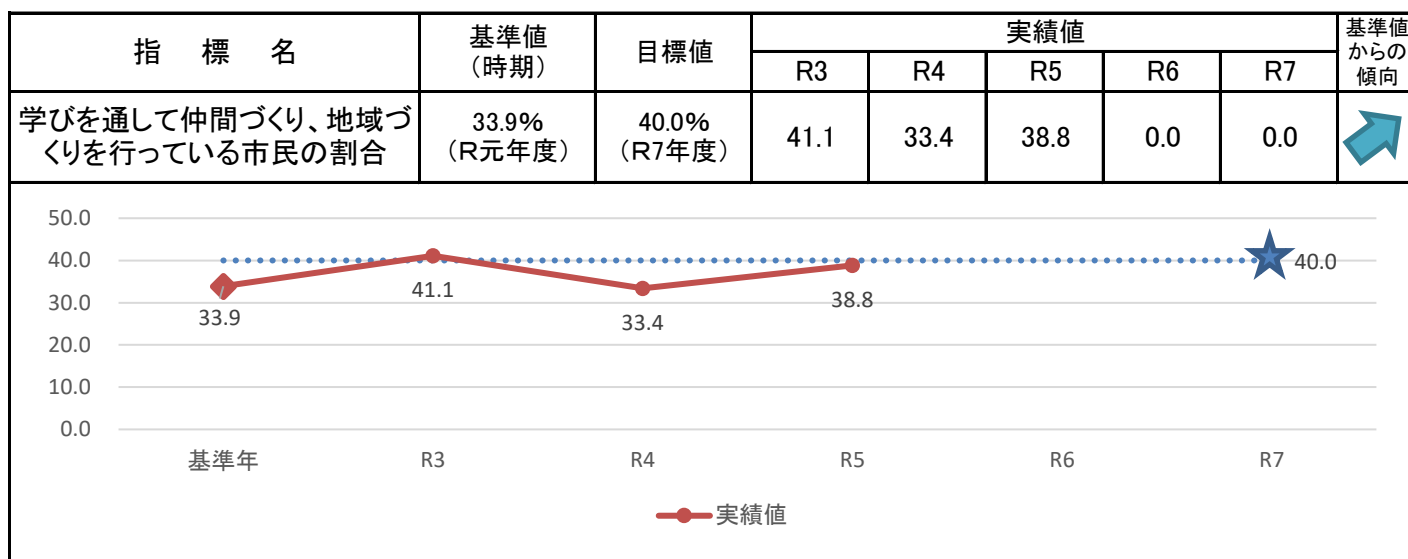
成果指標

指標名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値からの傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
自発的に学びに取り組んでいる市民の割合	38.4% (R元年度)	44.0% (R7年度)	36.6	33.4	37.2	0.0	0.0	↓



指標名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値からの傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
生涯学習施設等の利用者数	2,680千人 (H28～H30年度の平均)	2,802千人 (R7年度)	1,706	2,243	2,311	0	0	↓





年度別 主な取組内容

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
・公民館をはじめとする生涯学習施設等で行う講座や教室の参加者数の増加 (58,173人) ・図書館で、市民の読書活動を推進するための「おはなし会」などの事業取組みによる来館者数の増加 (647,544人) ・U-サポの取組みによる学生登録者数などの増加 (学生登録者数: 3,295人、応援団体登録数: 333団体、ボランティア延べ参加数: 4,376人)	・公民館をはじめとする生涯学習施設等で行う講座や教室の参加者数の増加 (66,040人) ・図書館で、市民の読書活動を推進するための「おはなし会」などの事業取組みによる来館者数の増加 (671,521人) ・U-サポの取組みによるボランティア延べ参加数の増加 (5,361人)		

令和6年度 個別施策評価シート

個別施策	G2-1	学びの場と機会の充実を図ります
2025年度に めざす姿	対 象	意 図
	市民が	様々な場所で集い、交流するとともに、ライフステージに応じた学習プログラムや現代的課題・地域課題などを学んでいる。
個別施策主管課名	生涯学習企画課	

成果

① 市民の学習機会の充実

●公民館では、デジタル機器に不慣れな高齢者を対象に、基本的なスマートフォンの操作を学ぶ講座を20回開催した。アンケートでは参加者の9割が満足と回答したほか、5割の方がスマートフォンを活用することが増えたと回答。また、講座や講演会、学習グループの活動発表などの動画をインターネットで発信することにより、多くの市民が公民館活動を詳しく知るきっかけとなった。(中央公民館 30回配信、1,709人視聴)(北公民館 65回配信、4,110人が視聴) このほか、平日に参加できない方も参加できるよう、土日や夜間の講座開催にも取り組み、講座等への参加者(R4 58,173人→R5 66,040人)が増加した。

●科学館では、直接現地へ出掛けて科学実験や工作教室を行い、科学に関する興味・関心を高める出前サイエンス教室や、自ら考えたものの作成をとおして科学的な考え方を助長する発明クラブ、野外観察教室などの各種事業を行ったことにより140,144人の来館があり、科学に関する学びの促進につながった。

●恐竜博物館では、恐竜を中心とする古生物学や地学への興味関心を高めるため、年間2回の企画展を開催したことにより、171,608人の来館があり、また、来館者に対して体験型のワークショップを1日2回開催したことにより、4,693人の参加があり、来館者の学習機会の提供に寄与した。

●市立図書館では、子どもの豊かな感性や心を育み、生涯にわたる読書習慣につなげるとともに、市民の読書活動を推進するため、「おはなし会」、「図書館を使った調べる学習コンクール」など各種事業に取り組んだことにより、来館者数(R4 647,544人→R5 671,521人)、貸出者数(R4 321,312人→R5 330,384人)が前年度より増加した。

また、幅広い層の市民に読書に親しんでもらうため、電子図書館のコンテンツ等を拡充したものの、電子図書館の閲覧・貸出数(R4 31,561件→R5 30,229件)は、ほぼ横ばいで推移している。

●日吉自然の家では、キャンプやものづくりなど自然に親しむ体験学習の場を提供しており、利用者数は前年度より4,797人増え、27,751人の利用があり、市民の生涯学習の振興に寄与した。また、森の整備やSDGsへの意識づけを図ることで体験活動をより充実させ、学びの場としての環境整備の促進につながった。

② 学生・若者への体験活動支援

●学生の自主的な社会参加活動を通じて、学生の人的成長と地域の活性化を図るため、ボランティア活動について学生と地域のマッチングを行うU-サポの取組みとして、大学1年生を対象とした「ちょいボラ祭」でボランティア活動をアピールしたことにより、ボランティア延べ参加数(R4 4,376人→R5 5,361人)が増加し、コロナ禍以前の状況(R元 5,431人)までほぼ回復した。

●長崎ならではの学びの場づくりの一環として、まちの魅力向上の観点から大学生が「長崎スタジアムシティにあったらいいもの」を提案するワークショップを開催した。(参加者31名)

●若者が実現したいアイデアや企画にチャレンジできる場としての「ながさき若者会議」を自立的に運営することを目指した「ながさき若者会議運営プロジェクト(R4年7月設立)」を伴走支援することにより、継続的に若者がチャレンジできる場が確保されている。

問題点とその要因

① 市民の学習機会の充実

●デジタル機器に不慣れで、デジタル機器の活用等について不安を持つ高齢者は多い。また、公民館職員がデジタル機器に接する機会が乏しいため、デジタル機器を活用した講座や配信などに取り組む公民館が少ない。

●科学館では、ICTを活用した事業ができるよう動画編集機器を導入したが、各種教室や実験を配信した実績、人材が十分ではなく、インターネットを活用した事業ができていない。

●恐竜博物館では、市立小学校5年生の宿泊体験学習時の訪問施設として受入れを行っているものの、自由見学がメインだったため、学習効果が限定された。

●図書館では、各種事業に取り組んだことにより、利用は前年度より増加しているものの、コロナ禍の活動自粛により利用習慣が途絶えた市民がおり、新型コロナウイルス感染症流行以前の水準までは回復していない。
また、電子図書館については、人気のものは期間や回数制限で利用できなくなるコンテンツがあり、紙の書籍と比べると、新刊の図書館貸出用コンテンツ数が少ないことから、閲覧・貸出数が伸びていない。

② 学生・若者への体験活動支援

●U-サポの取組みについては、ボランティア延べ参加数がコロナ禍以前までの状況には回復したが、長崎大学以外の大学については、ボランティア支援の専任スタッフがいなかったことや、大学のカリキュラム上、ボランティア参加が困難なことにより、参加実人数は回復できていない(R元 1,188人→R5 979人)。

●「ながさき若者会議運営プロジェクト」について、R7年度までは、学びの質を高めるための講師謝礼金やワークショップ用文具の調達、会場の借上げに係る資金面の支援を行っていくこととしているが、現時点で、R8年度以降自走できる仕組みの構築ができていない。

今後の取組方針

① 市民の学習機会の充実

継続 ●公民館講座については、主に高齢者を対象としたスマホ講座を開講するなど、公民館に課せられている現代的課題の解決に資する講座の開講や、仕事帰りの市民でも気軽に受講可能な時間帯での講座の充実を図るとともに、公民館が連携したオンライン講座などにも取り組み、デジタル活用の内容を充実していく。

継続 ●科学館では、コロナ禍が落ち着きオンライン配信などの必要性が減少したため、実際に見て、触れながら行う科学実験、工作及び出前教室等など、対面で行う事業に軸足を置きつつ、先進事例のノウハウを学び、身体障害者など外出が困難な方へ向けての科学実験等のオンライン配信や、外部講師によるオンライン講演会などが実施できるように努める。また、引き続き、科学館運営協議会等の意見を聞きながら、科学の不思議さをより学べるように事業内容を充実させる。

改善 ●恐竜博物館では、施設見学に際して、学習ポイントを押さえた映像教材やワークシートを新たに作成し、学習活動の充実を図る。

継続 ●図書館では、第三次長崎市子ども読書活動推進計画に基づき、関係課、関係機関と連携し、子どもの読書活動を推進するとともに、各種事業やイベントを実施することで、市民の読書活動の推進と、電子図書館の周知及びコンテンツの充実に取り組む。

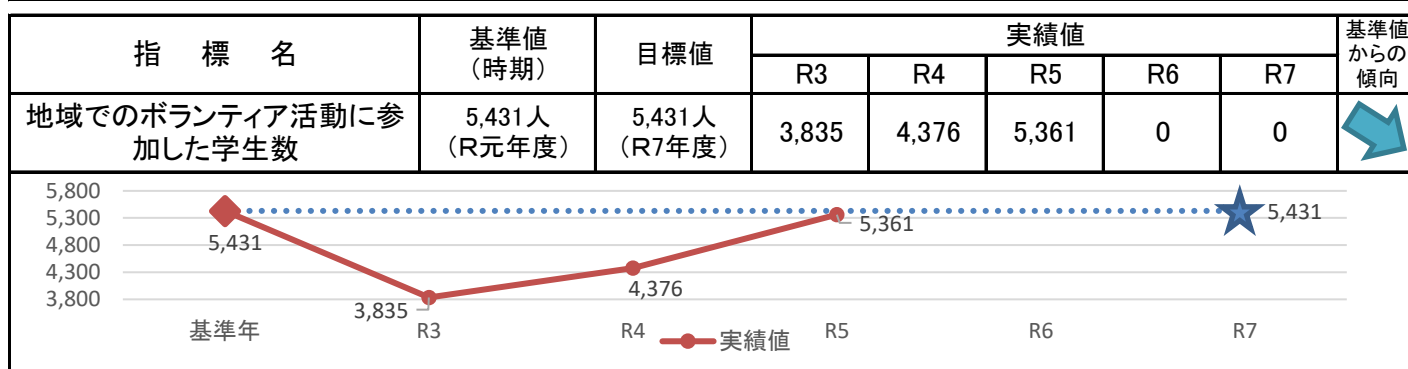
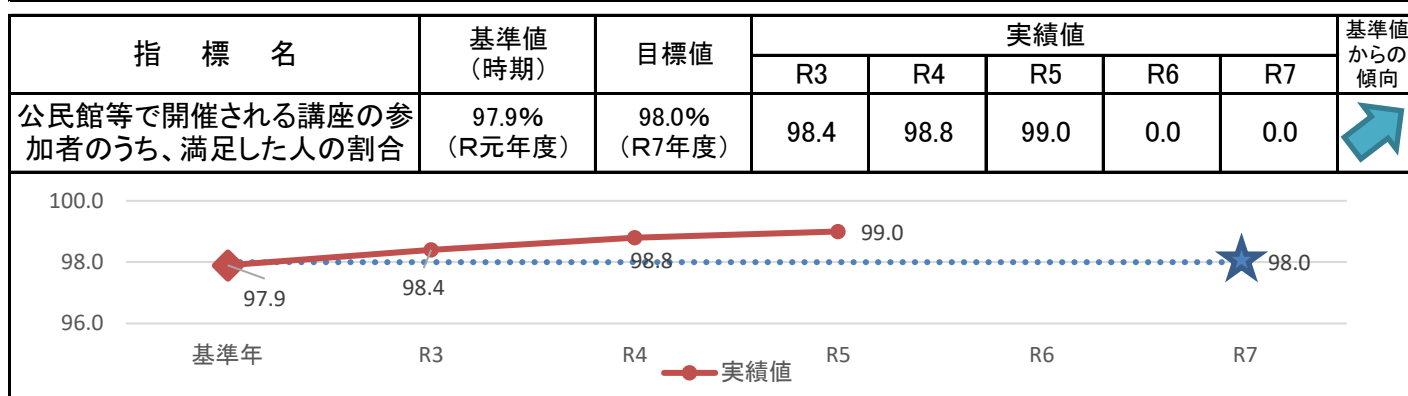
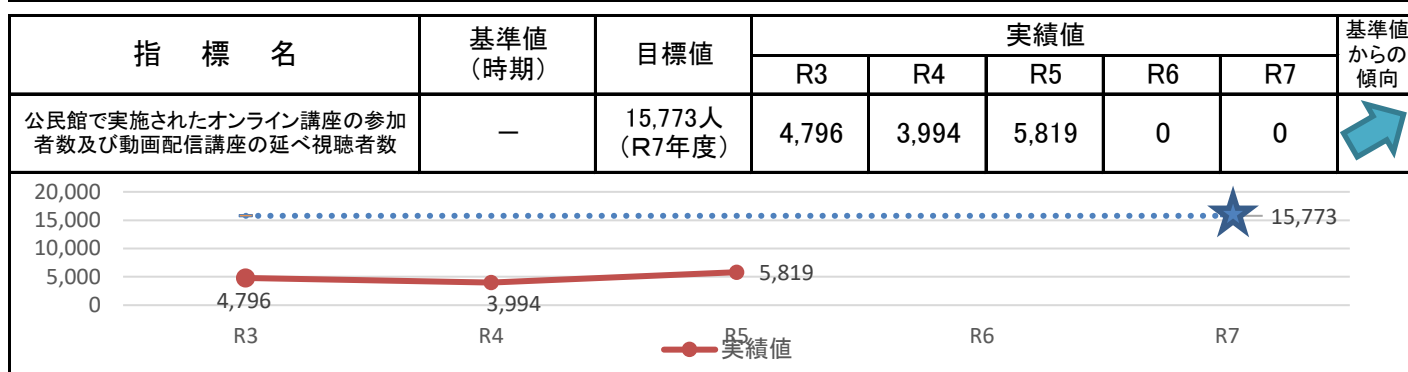
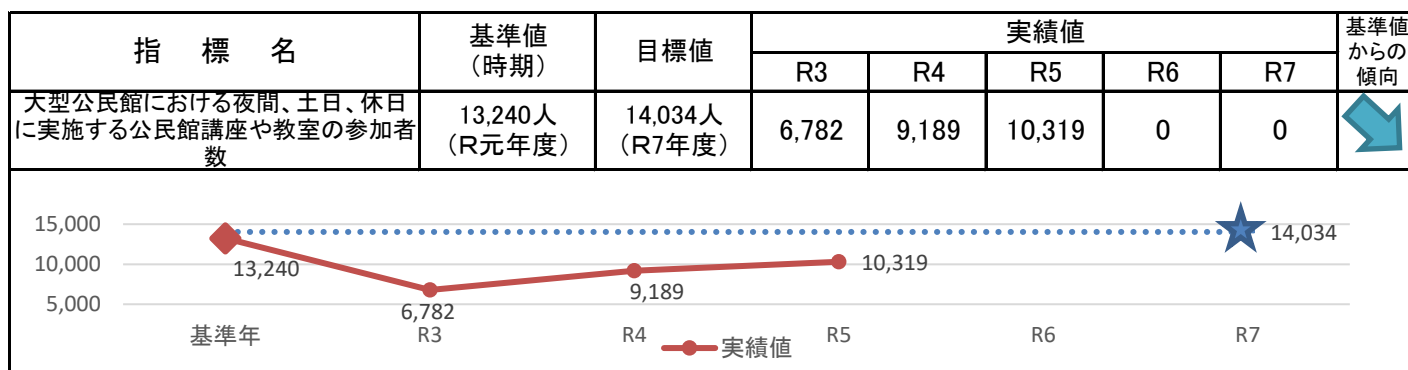
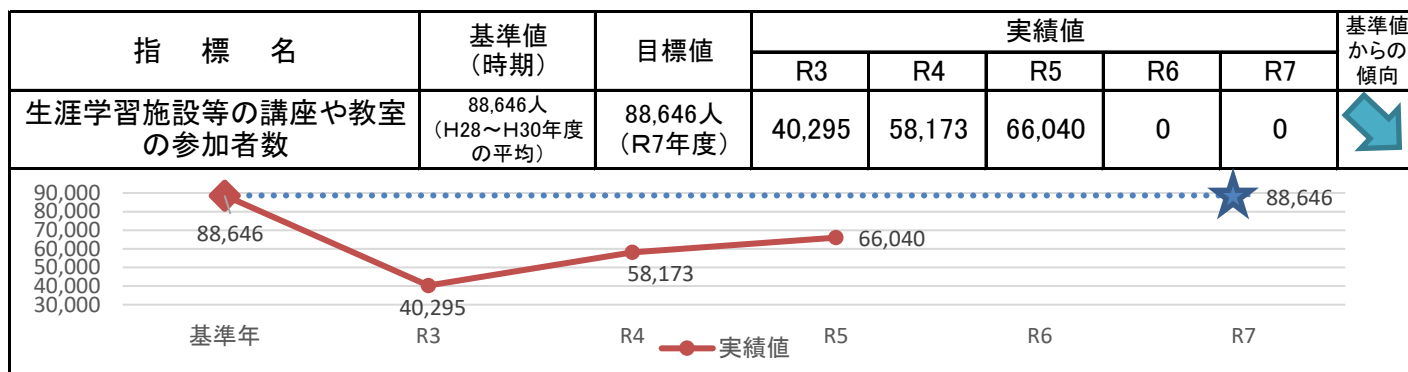
継続 ●日吉自然の家では、引き続き、市立小学校5年生の宿泊体験学習の受け入れをはじめとする自然に親しむ体験学習の場を提供し、市民の生涯学習の振興に努める。

② 学生・若者への体験活動支援

継続 ●U-サポの取組みについては、事業受託先であるやってみゅーでスクと連携し、大学生やボランティア募集の可能性のある団体への周知を行い、事業の更なる活性化を図る。併せて、今年度開業する「長崎スタジアムシティ」と連携した取組みを行うことで、学生ニーズを捉えた長崎ならではの学びの場のさらなる魅力向上を図る。

継続 ●「ながさき若者会議」の取組みについては、R8年度以降も引き続き持続可能な会議運営をするために、自走できる仕組みの構築を図る。

成 果 指 標



施策を推進する主な事業

1	事業名 担当課	図書館を使った調べる学習コンクール事業		生涯学習施設課	
	成果指標	応募点数			 【表彰式】
	目標値	100点			
	実績値	50点			
	達成率	50%			
	成果指標・ 目標値の説明	より多くの児童生徒等が、図書館にある豊富な資料等を活用して、自ら興味を持ったことを調べ、作品にまとめ上げることは、学びの意欲の向上や今後の図書館の利用の促進、ひいては読書活動の推進につながることから、応募点数を成果指標とした。 過去5年間(令和元年度から5年度)の平均を基に設定した。			
	事業目的	図書館にある豊富な資料をはじめ、様々な情報を活用した調べる学習を通じて、児童・生徒等が自ら考え、判断し、表現する力をはぐくむとともに、その活動において、公共図書館、学校図書館等を利用し、調べ物の楽しさを体験することにより、図書館の役割を認識し、今後の図書館の利用促進、ひいては読書活動の推進につなげていく。			
事業概要	図書館等を利用し、調べ物学習を行い、その結果をレポートとして作成し、1つの作品として応募されたものについて、審査を行い、優秀作品を表彰する。				
取組実績	・応募点数 50点 (内訳) 小学生低学年:16点 小学生中学年:15点 小学生高学年:14点 中学生:4点 高校生:1点 (一般:0点) ・全国コンクールへ2点の作品を推薦したところ、2点が佳作を受賞した。 ・コンクールの周知と応募者の増加を図るため、小学生を対象とした「調べる学習たいけん教室」を実施。2回、参加者44人。				
	決算(見込)額		52,195	円	

2

事業名 担当課	游学都市・ながさき推進費		都市経営室	
成果指標	地域でのボランティア活動に参加した学生数		 【ちよいボラ祭】	
目標値	5,431人			
実績値	5,361人			
達成率	98.7%			
成果指標・ 目標値の説明	ボランティア参加数が増えることで、学生のニーズを捉えた学びの場が提供できていると考えられるため、参加学生数を成果指標とした。 コロナ禍以前の参加数である5,431人を目標値とした。			
事業目的	長崎のまち全体が貴重な学びの場となるような游学の地として個性と魅力を高め、若者をはじめ多くの人々が交流するまちとなることを目的とする。			
事業概要	長崎地域の大学と連携し、学びの場としての魅力向上と長崎で学ぶ魅力の情報発信に取り組む。			
取組実績	大学1年生を対象とした「ちよいボラ祭」で応援団や学生自主企画に、それぞれの活動に即した体験的なワークショップを催してもらい、ボランティア活動をアピールすることで、ボランティアへの参加を促進した。(計4日間)			
	決算(見込)額	2,500,000円		

令和6年度 個別施策評価シート

個 別 施 策	G2-2	能力や経験が社会に活かされる仕組みをつくります	
2025年度に めざす姿	対 象	意 図	
	市民が	学びを通して習得した能力や経験を、地域の学習活動等に活かしている。	
個別施策主管課名	生涯学習企画課		

成果

① 学習活動ボランティアへの活動機会の提供

- 公民館ボランティアの活動回数(R4 325回→R5 213回)、参加者数(R4 642人→R5 509人)は減少したが、公民館支援ボランティアによる活動により、受講者のスムーズな受講の支えになるなど成果があった。
- 中央公民館では、ボランティアの企画による講座(年1回)やボランティアスキルアップ講座(R4 1回→R5 2回)の開催に取り組み、ボランティア活動へのモチベーションアップにつながった。
- 市立図書館を生涯学習の拠点として充実させるため、図書館ボランティアに対し、市立図書館での配架やクリッピング、イベントサポーター等の活動や、学校図書館での読み聞かせ活動の機会を提供したことにより、延べ591回、2,359人の参加があった。
- 家庭教育の取り組みとして、学校や学級単位で保護者同士が話し合いながら子育てや生活習慣などについて相互に学びあう「ファミリープログラム」を充実させるため、コーディネートするファシリテーターの人材育成を目指し、認定及びスキルアップ研修会を実施し、新たに5人が県認定ファシリテーターに登録され、ファシリテーターにとっては資質を向上させる機会となった。新規認定者もファシリテーターとして活動に加わり、全体で、実施回数(R4 59回→R5 55回)は前年とほぼ同数であるが、参加者数(R4 1,932人→R5 2,277人)が増加した。

問題点とその要因

① 学習活動ボランティアへの活動機会の提供

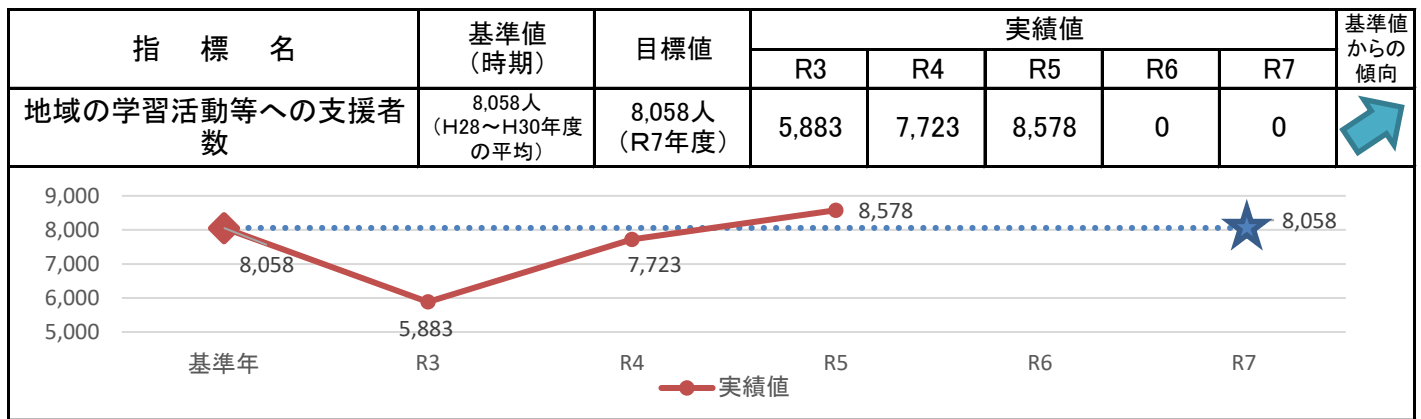
- 公民館ボランティアの活動は、参加者が固定化、高齢化しており、昨年度と比較し縮小している。ボランティア活動の魅力を高めたり、新たな経験ができる場として、若い世代の参画につながるような取り組みができていない。
- 図書ボランティアの活動は、参加者数は新型コロナウイルス感染症流行以前の状況に回復してきているものの、出張おはなし会等の読み聞かせボランティアに関しては、他のボランティアと比べると多くの研修を必要とするなど負担感が大きいことから、新たな参画者が少なく、ボランティアの固定化、高齢化が進んでおり、活動の機会が減少している。
- ファミリープログラムファシリテーターの開催が日中に偏っているため、就労世代の登録者の活動が難しい面がある。

今後の取組方針

① 学習活動ボランティアへの活動機会の提供

- | | |
|----|--|
| 継続 | ●公民館講座の魅力を高め、世代ごとのニーズを集めるなど、世代交流を意識した講座を企画し、公民館への集客層を広めることから始めて、あわせてボランティア活動につなげることができるよう取り組む。 |
| 継続 | ●図書ボランティアの活動は、新型コロナウイルス感染症流行以前の状況に回復してきているので、引き続きボランティアとの協働体制を構築し、ボランティアの需要と供給のマッチングに努める。 |
| 継続 | ●ファミリープログラムファシリテーターについては、引き続き認定研修会を開催するなど、登録者の裾野を広げるとともに、昼間の学校での開催だけでなく、地域での開催に取り組むことで土日や夜間など就労世代も活動しやすい環境づくりに努める。 |

成果指標



施策を推進する主な事業

1	事業名 担当課	図書ボランティアの活用		生涯学習施設課	
	成果指標	図書ボランティア参加者数			
	目標値	2,054人			
	実績値	2,359人			
	達成率	114.8%			
	成果指標・ 目標値の説明	ボランティアに参加することは、地域社会の中で自らの能力や経験を活かすことにつながることから、図書館ボランティア参加者数を成果指標とした。 新型コロナウイルス感染症流行以前の状況に回復することを目指し、令和元年度の参加者数である2,054人を目標値とした。			
	事業目的	ボランティア活動を通じて、地域社会へ貢献しようとする市民とともに、よりよい図書環境をつくるため、市民と図書館との協働体制を構築する。			
	事業概要	ボランティアに登録した人たちが次の活動を行う。 ・図書の装備(図書をビニールのフィルムでカバーしたり、バーコードなどを貼ったりすること)や配架 ・新聞のクリッピング ・学校等での読み聞かせ等			
取組実績	図書館のボランティアとして登録した人たちが、図書の装備や読み聞かせ等の活動を行い、図書環境の整備に寄与した。 ・配架 914人(252回) ・装備 908人(126回) ・クリッピング 320人(126回) ・読み聞かせ 65人(25回) ・イベントサポート 95人(32回) ・YA(学生)ボランティア 57人(30回)				
	決算(見込)額		0	円	